



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/10 (月)	+ 500	+ 9,600	+ 10,100	国庫短期証券発行償還 (3M・6M) 国債償還 (物運10年)	国債補完供給 CP等買入 + 4,900 ▲ 100		日：毎月勤労統計 (1月)
3/11 (火)	+ 1,000	▲ 29,000	▲ 28,000	国債発行 (5年)			日：GDP (10-12月期改定)
3/12 (水)	トン	+ 4,000	+ 4,000	源泉税揚げ			日：国内企業物価指数 (2月) 米：CPI (2月)
3/13 (木)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (20年)			米：新規失業保険申請件数 (3月8日終了) 米：PPI (2月)
3/14 (金)	トン	+ 6,000	+ 6,000				日：連合、25年春闘の第1回回答集計結果

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3兆6,300億円減少の527兆6,300億円から始まった。その後、法人税・消費税・保険料揚げや国債発行等の要因により増減し、7日は519兆5,600億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.477%~0.64%のレンジ、1M~3M物0.56%~0.67%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、10日に毎月勤労統計 (1月)、14日に25年春闘の第1回回答集計結果が公表。海外では12日に米CPI (2月)、13日に米PPI (2月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.80
6M	0.65 ~ 0.90

<レポ>

足許GC取引は週央まで+0.47%~+0.49%で出合いが多く見られた。6日は一時+0.40%台前半まで低下したが、引けには+0.48%近辺まで戻した。3m短国の発行があった週末は+0.47%~+0.49%のレンジで取引された。

SC取引は2年460~468回債、5年155~174回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40近辺
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,400億円で、週間償還額の1兆2,800億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆2,110億円から、3月6日時点で25兆5,094億円に増加した。発行市場は、鉄鋼、食料品、石油製品、卸売業、電気業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台前半、3か月物は0.50%台後半から0.60%台での発行気配が見られた。

来週の償還額は、1兆4,300億円となっている。発行市場は引き続き一般事業法人の有利子負債圧縮が進み、落ち着いたマーケットが見込まれる。発行レートは、3か月物を中心として投資家の目線感が上昇し、1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.60%台半ばから0.60%台後半での出合いを予想する。

<TDB>

6日の6M (1291回債) の入札は、最高落札利回り0.4533% (前回債0.3756%)、平均落札利回り0.4373% (前回債0.3716%) となった。

7日の3M (1292回債) の入札は、最高落札利回り0.3532% (前回債0.3432%)、平均落札利回り0.3404% (前回債0.3255%) となった。

来週の入札は14日に3Mが予定されている。